

製品名: PKA I β reg ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16183**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	43kDa

抗原情報

遺伝子名	PRKAR1B
別名	PRKAR1B; cAMP-dependent protein kinase type I-beta regulatory subunit
遺伝子 ID	5575.0
SwissProt ID	P31321
免疫原	抗血清はヒト KAP1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 106-155

背景

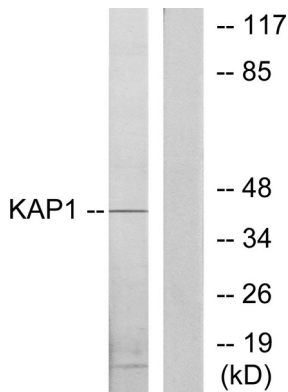
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、サイクリック AMP 依存性タンパク質キナーゼ A (PKA) の調節サブユニットであり、セカンドメッセンジャー cAMP のシグナル伝達経路に関与しています。2つの調節サブユニットと2つの触媒サブユニットが

PKA ホロ酵素を形成し、cAMP 結合後に解散します。ホロ酵素は、イオン輸送、代謝、転写など、多くの細胞イベントに関与しています。この遺伝子には、同じタンパク質をコードする複数の転写バリエーションが見つっています。 [RefSeq 提供、2015 年 8 月],PTM: 擬似リン酸化部位が触媒鎖の基質結合領域に結合し、その結果、その活性が阻害されます。 ,類似性: cAMP 依存性キナーゼ調節鎖ファミリーに属します。 ,類似性: 2つのサイクリックヌクレオチド結合ドメインを含みます。 ,サブユニット: 酵素の不活性型は、2つの調節鎖と2つの触媒鎖で構成されています。 cAMPによる活性化により、2つの活性触媒モノマーと、4つの cAMP 分子に結合する調節二量体が生成される。 ,組織特異性: 4種類の調節鎖 (I- α 、I- β 、II- α 、II- β) が認められる。これらの発現は組織によって異なり、恒常的である場合もあれば誘導性である場合もある。 ,

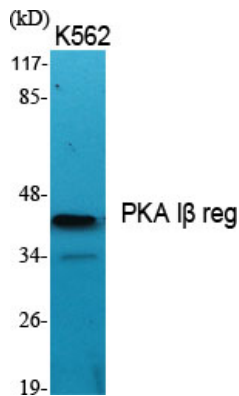
研究分野

アポトーシス阻害;ミトコンドリアアポトーシス;アポトーシスの概要;インスリン受容体;

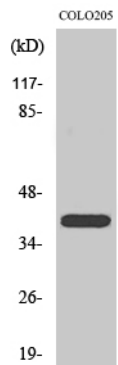
画像データ



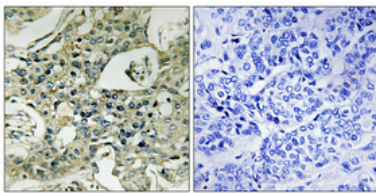
KAP1 抗体を用いた COLO205 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



PKA I β reg ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



PKA I β reg ポリクローナル抗体を用いた COLO205 細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。